

ご支援いただいた皆様へ

この度は『ネパールの医療をITの力で支える！ASHA fusion導入プロジェクト！！』を応援いただき、心より感謝申し上げます。
105名の支援者の皆様から、合計1,425,000円のご支援をいただきました。

2015年10月にサッキヤが任と声をあげてから、約1年。
本年8月下旬から9月上旬にかけて、第1回の渡航を無事に終えました。現地の医師や看護師から、ソフトウェアの使いやすさ・情報管理の効率化についてとても前向きな意見をいただくとともに、今後も継続して意見交換を重ねる関係を築くことができました。

ここまでプロジェクトを前進させられたのは、皆様から頂いた温かいご支援のおかげです。
応援メッセージの中には「ネパールの人に役立つものを作ることの重要性」「医療情報管理の必要性」に強く共感してくださるものもあり、私たちが活動を続ける大きな励みとなりました。

今のASHA fusionが現地の医療にとって最高のものとは言いません。むしろ現場の人と今後改良していくことに意味があると考えています。人々の健康や生活の質に深くかかわるソフトウェアだからこそ、慎重にかつ革新的に、導入から活用へつなげていきたいと思います。

ご支援いただいた皆様のお気持ちに応えられるよう、小さな積み重ねを大切にして進みます。
これからもどうか応援してくださいますようよろしくお願ひ申し上げます。



今回の渡航で、Trishuli Clinicでは、予定を前倒しして導入を開始していただくことになりました。次回渡航は、2016年11月と2017年3月を予定しています。
活動の様子をfacebookページにて更新していきます。



渡航と活動のご報告

地方部に位置する分院。病院まで数時間かかる人にとって、アウトリーチ（※医療不足の地域での簡易診療施設や無医村への出張サービス）は貴重な資源となるそうです。1度きりの診察ではなく、複数回のフォローが必要とは実感しつつも、人手やシステムの不足が課題。政策側に相談し、情報管理を一元化する手立てを模索できないか話し合いました。



Shankharapur
Hospital



Trishuli Clinic



Dhulikhel
Hospital

YouMe
Nepal



Trishuli Clinicでは経営者や医師だけでなく、看護師や受付の方々も積極的にこのプロジェクトに参加してくださることになりました。受付を務める方をキーパーソンの1人として現地でプロジェクトを進めてもらっています！



Trishuli Clinicでは、一般医による普段の診察と、時折開催される数人の専門医が集中的に診察をするメディカルキャンプをつなぐべく、ASHA fusionを試験的に導入しました。院内各所にデバイスを設置してネットワーク化し、スムーズに情報の共有と保存ができる仕組みを整えました。実際に病院スタッフの方々に使って頂いて、大きなトラブルなくキャンプを運営することができ、今後も継続して使って頂けることになりました。エンジニアが現場で直接コミュニケーションをとりながら、実際に使ってもらうことで得られた知見も多く、今後のさらなる発展につながる1日でした。

ASHA fusion試用 → → → メディカルキャンプ実施



左はASHA fusionを試用したときの写真です。専門医4人および当直担当者数名とともに、PC・タブレットを動かし、細かな内容を確認しました。項目に過不足は無さそうでしたが、病院がもともと使用しているフォーマットと比較し、病院に残す情報・患者さんに伝える情報の優先度の明確にする必要がありました。若い医療従事者が多く、操作が円滑だったことが印象的です。

新しいものへの抵抗感は誰しも抱くものですが、利便性とIT活用への期待感がそれを上回る瞬間を、face to faceで共有できたのが大きな前進でした。

現地でサポートいただいている方々より



通訳と病院訪問を
してくださっている
Surendraさん

ASHA Nepal プロジェクト実に素晴らしいです。実はネパールでは様々なソフトない事はないです。他のソフトよりASHA Nepalが作ったソフトはフレンドリーです。本当に使いやすいです。エンジニアのYuichiro Tsuchiyaのおかげです。Dr.Sandeep、Yoshifumi Ninとの努力で今まで来ました。日本からネパールまで足を運んでくださった皆さんと支援して下さった日本の皆、本当にありがとうございます。その中で、私はほんの少し手伝いできたのは嬉しいです。これからASHA Nepalの成功をお祈りします。

Medical data management remains one of the most neglected part in Nepal's health system. ASHA Nepal aims to fill up this lacuna by an attempt to introduce an application which is sustainable and user friendly. Although it all started with some crude idea from the creative students of Tokyo University and the Nepalese medical professionals, It would certainly help make a revolutionary impact in the health system on a long run.

On behalf of the Nepalese community I would like to thank our known and unknown Japanese friends who have helped the ASHA project by devoting time, making generous donation to support the crowd funding and making tiresome journey to the rural part of the country for several times. **Dhanyabad! Aarigatou gojaimasu!**



丁寧なフィードバックを
くださる **Ramesh医師**

新たなメンバーと一緒に

- 病院実務経験をもち、現在国際保健学専攻のネパール人院生
- 小児科医で、現在公衆衛生学専攻の台湾人院生
- 情報工学系の中国人留学生
など、本プロジェクトに関心を寄せて、ミーティングに参加する方が増えています。

日本とネパール、日本国内での医療・情報系関係者、
日本に住むネパール人同士のつながりをつくって、
Sustainableなチームとして今後も活動していきます。



「希望」の意味を持ったこのASHAプロジェクトにご支援していただいた皆様ありがとうございます。お陰様でトリスリ病院で無事ソフトを導入することができました。これからは現地のニーズに合うように適切化を図り、より良いものにしてまいります。
(サッキヤ・サンディープ)

温かいご支援、お言葉をありがとうございます。ネパールの人々の健康、幸せに少しでも貢献できたら、と活動を始めましたが、その第一歩を踏み出せたのはひとえに皆様のおかげであると感じております。この貴重な頂いたご縁を必ず形に、目に見える形で価値あるものにしていきたいと思います。(任喜史)

ASHAの活動にご賛同いただき、どうもありがとうございました。実際に使う現場の方々に本当に良いと思ってもらえるもの、真に価値を生み出せるものを目指し今後も鋭意開発を進めてまいります。(土屋祐一郎)



あたたかいご支援、心から感謝申し上げます！みなさまの想いが形になり、それが今後も繋がっていくように、日本でもネパールでも活動していきたいと思います。(林直人)

日本から医療を届けるだけでなく、ネパールの方自身が新しい医療のカタチを創るお手伝いをしたいと思っています。皆様のご支援のお陰で貴重な一歩を踏み出すことができます。ご支援いただき、ありがとうございました。(平野勇太)

現地の方々が納得してソフトを使えるよう、そして、集まったものがただの情報にならずに、患者さんのケアに役立つものとなるように、活動していきたいです。そのために欠かせないご支援をいただき、心より御礼申し上げます。(北原祐理)